

平成 18 年 5 月 22 日

各位

ガレニサーチ株式会社
代表取締役社長 小川 泰亮

LT Tバイオファーマ社との共同研究成果に関するお知らせ

当社は、平成 17 年 2 月 1 日付で発表しております株式会社 LT T バイオファーマ（本社：東京都港区愛宕 2-5-1 愛宕グリーンヒルズ MOR I タワー内、代表取締役社長：稲垣哲也）と多孔性ハイドロキシアパタイトを利用した徐放性微粒子製剤の実施を相互に許諾する基本契約を締結し、共同研究を実施してまいりましたが、その研究成果についてお知らせいたします。

多孔性ハイドロキシアパタイト微粒子製剤について

ハイドロキシアパタイトは骨、歯の主成分で安全な素材であります。独立行政法人物質材料研究機構の協力により作製した多孔性ハイドロキシアパタイト微粒子は、生体内で緩徐に生分解され、また、種々の薬物を結合または封入できる性質を有しています。結合、封入された薬物は、生体に投与された場合、徐放します。当社は、すでに、多孔性ハイドロキシアパタイトを利用したヒト成長ホルモン徐放性微粒子製剤を日本ケミカルリサーチ株式会社にライセンスアウトしております。

多孔性ハイドロキシアパタイト微粒子を用いたインターフェロン製剤

インターフェロン（ α -2b）を多孔性ハイドロキシアパタイト微粒子に吸着させ、さらに、工夫を加えたシステムを作製し、ラット皮下に注射したところ、現在もっとも優れたインターフェロン持続剤である PEG インターフェロンよりも少量で優れた持続的な血中濃度推移を示しました。今後、開発に際しては、さらに検討しなければなりません。現時点でもっとも繁用されている PEG インターフェロンよりも臨床的に優れた製剤ができるとすれば、世界中のウイルス肝炎患者に大きな福音となります。

今後の方針

これらの研究成果をもとに LT T バイオファーマ社と共同でパートナーを探索し、ライセンスする方向を予定しております。